

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 717 号 令和 3 年 2 月

本会事業の進捗状況

副会長理事 中 越 一 郎

会員の皆様をはじめ関係各位におかれましては平素より本会の諸事業の運営と推進に当たりまして多大なご協力とご支援を賜り厚く御礼と感謝を申し上げます。

昨年は年初から新型コロナウイルス感染拡大に翻弄されました。東京オリンピック・パラリンピックをはじめ多くのイベントが中止や延期もしくは規模縮小となりました。当然、獣医師会においても獣医学術学会年次大会、中国地区獣医師大会の中止等、また本県獣医師会においても、定時総会の規模縮小、県獣医学会、各部門の講習会の中止（小動物部門では1回実施）等、多くの事業に多大な影響が出ました。

このような状況により本会の事業においても予定通りとは行かず、数々の制約や変更が余儀なくされましたが、会員の先生方の御尽力により事業を推進する事が出来ています。ここでは現在までの進捗状況について簡単に報告させていただきたいと思えます。

本会の事業の実施事項としては、[公1] 獣医学術・獣医療技術の向上普及、人材育成、畜産振興支援および公衆衛生向上等事業、[公2] 動物の愛護・保護・救護等支援事業、その他として広報・普及啓発等、本会と支部との連携協力推進、部会・委員会活動の推進、獣医事に係る要望・要請活動があります。この中でヒトと動物そして生態系を含めた環境の関係における統合的な考え方であるOne Healthの一端としての山口県医師会との学术交流推進、災害時動物救護対策推進およびマイクロチップの普及啓発、この3点に重点を置き、取り組んでいます。

まず山口県医師会との学术交流推進ですが、近年の獣医界を取り巻く情勢は、国内で動物由来によるSFTS（重症熱性血小板減少症候群）及びコリネバクテリウム・ウルセランス等によるヒトの死亡事例やBウイルスの感染、動物由来とされるCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）、高病原性鳥インフルエンザなどヒトと動物の共通感染症の予防が最重要課題となっています。このことから食の安全性という課題も含めて獣医師と医師との連携ならびに協力体制を強固なものにする必要があります。本会においても、相互の情報交換、シンポジウムの積極的な参

加等、医師会との連携協力を図っています。

次に災害時動物救護対策の推進ですが、災害時にはまず人命救助とインフラ機能の回復・整備が優先されることが第一義ではありますが、獣医師としては人と動物とが共存する社会の進展にあって、特に犬・猫等の伴侶動物の救護は大きな命題でもあります。本会では2011年に「災害時動物救護対策委員会」を中心に「災害時における動物救護マニュアル」を作成しました。しかしその内容は行政等と連携しながら対応するという総合的なものであり、動物救護施設の設置等を考慮すれば、実質的に当該マニュアルに沿って活動する事は困難と思われる点が多々ありました。そこで現時点で実態に即した対応マニュアルを作成する目的で2016年度から当該マニュアルの改正検討を開始し、「災害時動物救護対策委員会」を中心に、小動物委員会、支部長会議、理事会で検討を重ね、2018年4月26日付けで施行となりました。以後、改正マニュアルに沿っての机上学習の実施、講習会への積極的な参加等により事業の推進を図っています。また本事業に関しては、伴侶動物との同行・同伴の避難場所の確保と整備について県・市町等、行政機関の協力・支援が必要なことから、獣医師会と県との災害時協定の必要性と締結を県知事及び県議会議長等に求めています。

最後にマイクロチップの普及啓発ですが、2019年6月に改正動物愛護法が成立したことによって、ペットショップなどで販売される犬・猫へのマイクロチップの装着が義務化、一般の飼い主に対しては努力義務となりました。例えば迷子、事故、盗難等にあった動物が発見された際にマイクロチップが装着されていれば所有者が確認でき、また災害時の身元の確認にも役立ちます。しかし我が国では、まだまだ装着率が低いため、マイクロチップの装着に努めるよう啓発する必要があります。本会においても、開業獣医師会員のうち希望者に10本を上限に配布するなど、マイクロチップ装着の啓蒙・推進を図っています。

これらの事業は行政機関や関連団体との調整等もあり、今後も継続的重点事業として取り組んでいく事としておりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、宜しく申し上げます。

予告

令和2年度第4回理事会の開催について

令和2年度第4回理事会を当初、令和3年3月11日（木）午後1時30分からの開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大をうけ、書面による「議決の省略」とすることとしました。

なお、（公社）日本獣医師会開催の理事会のように、ハイブリット会議（Web活用会議と来館される理事・監事による一体的な会議）開催を現在、模索しております。

年男・年女の抱負



禍を転じて福と為しますように



山口支部 福田 泰史
(福田犬猫病院)

あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。
 昨年は新型コロナウイルスの世界的感染拡大という全く予想もしていなかった事態となり生活が一変しました。

感染予防のための診療体制見直しやスタッフの健康面のケア、あわせて自分自身と家族の感染予防にも気を使いながらの常に気を張った生活が続いています。

一年を振り返ってみると、霏がかかったようなスッキリと晴れない閉塞感の中で、今まで何となく過ごしてきた日常を改めて見つめ直し、本当に大切にしないといけない事や時間であったりに気付くことが出来ました。

3密を避ける生活の中で、人との出会いや、人々との繋がり大切さにも改めて気付かされました。

未だに出口が見えない状況ですが一日も早い新型コロナウイルスの終息を願いつつ、この一年弱のコロナ禍で得た様々な経験や気づきを人生の糧にして上昇気流に変えられるように日々精進していきたいと思ひます。

新年の抱負



山口支部 福田 美穂
(福田犬猫病院)

あけましておめでとうございます。

早いもので4回目の年女を迎えました。12年前を振り返りますと、娘が5歳でまだまだ手がかり、初めての子育てに心身共ヘトヘトだったように思ひます。

あれから小・中・高校と子供が成長するにつれ、いろいろなことがありました。PTAや部活の保護者会活動も経験し、仕事をしていただけでは見えなかったような問題に直面することもありました。しかし、その都度、素晴らしい先生や保護者の方々にお会いでき、子育てと言いつつ、私自身が大人として育ててもらったように思ひます。

また、子供とペットの関り方や子犬・子猫の育て方など、(人間の)子育ての実験が仕事の役に立つことも随分あります。思うように仕事ができず、もどかしい時もありましたが、どんな経験も無駄ではないと実感しています。

娘も高校生になり、そろそろ子育ても終わりが見えてきました。今までマイペースに仕事をさせてくれた夫や夫の両親に感謝しつつ、次の12年は獣医師としてもう少し成長できるように頑張っていきたいと思ひます。

山口大学における大きな変化

山口大学支部 上林 聡之
(共同獣医学部臨床獣医学)

昨年はあらゆる人にとって激動の一年だったことと思ひます。働き方、暮らし方が大きく変化した方も多いのではないのでしょうか。山口大学動物医療センターでも、一時的な診療数の制限や参加型臨床実習の同時に参加できる人数の削減など、さまざまな影響が出ております。私はその他に、例年行っており動物医療センター総合臨床セミナーの開催者の一人を務めておりますが、こちらに関しても残念ながら当面見合わせという形をとっております。集まったのセミナーがいつ開催できるかもわからない現状、今後なんとかオンライン開催ができないか模索しているところでもあります。楽しみにされている先生方には、大変ご迷惑をおかけしております。

山口大学内でも個人的には衝撃的な変化がありまして、非常にローカルな話で山口大学出身の先生方以外にはピンと来ないかもしれませんが、なんと大学の学食「きらら」が昨年12月より営業休止となりました。微妙に(絶妙にはではなく)安めの値段設定と、まあ……うん……そう……な味で有名で、私も学生時代からよく利用したものです。この食堂では、新入生の時に教員の先生方に挨拶をしたり、同級生と試験勉強をしたりと様々な思い出がありますが、自分の中で最も印象的なのはやはり予餞会です。いったいつの頃から始まったか定かではありませんが、山大獣医には卒業生を送るこの予餞会をほぼ学生だけで、1~6年生の全員が集まって行い、その時に3年生が所属研究室の6年生の物まねやコントをす

るといふ伝統があります(ちなみにまだ続いているようですが、今年はどうなることやら……)。学生主体で酒も入り、当然のように名状しがたい惨状が繰り広げられていたわけですが、そのようなお祭り騒ぎを平然と許してくれていたきららは、実は大変懐かかったのだと今に思ひます。当時はもっと良い店が入ってくれと願っていましたが、実際に閉まってしまふとそのようなことも出来なくなるのかなと寂しく感じます。

ただ、去るものあれば来たるものあり、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、2019年より農学部・共同獣医学部の正面に新しく福利厚生施設「FAVO」が完成し、今までにはなかったカフェレストランとして賑わっております。メニューも、焼きたてパンやパスタ、ランチプレート、多様なドリンクメニューなど山大らしからぬラインナップです。ゆったりとした空間で感染対策も十分されていますので、山口大学にお立ち寄りの機会がありましたら、ぜひ足を運んでみてください。ただ私は写真のような洒落さにむしろ、食堂のごちゃごちゃした感じ、代わり映えのしないメニュー、雑な味付けが懐かしく感じてしまうのですが。



リレー随筆

がんばるメバール号

山口支部 松 清 裕 樹
(まつきよ動物病院)

新年あけましておめでとうございます。新型コロナ下で強いられている新しい生活様式には皆さまは慣れられましたでしょうか。私はといえば多分に漏れずほぼ巣ごもり状態で過ごしており、外出や旅行を自粛しているため普段以上にリレーエッセイの依頼を受けて書く題材に困っており、つれづれなるまま思っていることを書かせていただきます。

とはいえ、ずっと病院にこもっていると精神的にやられてしまうので身近な県内をマイクロツーリズム気分で行かれます。他府県の親族や知人、同級生をはじめとする同業の士はどうしているのだろうと頭の隅で考えつつ、出かける先を考えるのはちょっとした楽しみです。交通網の整備は継続して行われており、狭く曲がりくねった道は中央線の入ったまっすぐな舗装路に置き換えられ、いやでも目に入る案内板に安心したり風情の少なさにちょっと落胆したりしながら現地に赴きます。病院の決め事上ほとんどの休みは平日なのでどこに行ってもあまり人ごみに会うことはありません。

そんな中、ニュースで防府市に災害時には緊急避難所にも活用できるという公園が整備され、このほど完成したと聞きましたので百聞は一見に如かずと見に行きました。到着すると平日にもかかわらず小さな子を連れた親子連れでにぎわっておりました。(写真)目を引く大きな目玉の魚の形のがんばるメバール号はすべり台や太い綱で編まれた網をもち、小さなお子さんやその保護者の方が夢中になっておられました。お気に入りを探して何度も遊んだり、わざと保護者の目から隠れるつもりでかくれんぼをしたりしています。最初は登れなかった子供が上手に登っているお友達を見よう見まねでまねているうちにできるようになったりと、記憶にはありませんが自分

が小さかった時もこうやって一つ一つ憶えていったのかなと思ってみたりもします。

傍らにある掲示板を見ると、緊急災害時等にはこの大きなメバール号が臨時の屋根付きの大空間テントになり、周辺のベンチはかまどベンチと呼ばれ、キャンプ場でみられるような炊事場に、屋根付きの東屋やパーゴラ(柵付きのベンチ)はロールスクリーンを使ってやはり避難所・シェルターに変身します。そのため資材置き場もすぐ近くに設けられています。公園なので水飲み場があり、目立つ段差はなく、車道をまたぎますがトイレも近くにありますが、駐車場も車道を挟んだ反対側にあるのですが、これは車と人との接触の可能性を排除するためだと理解しました。普段お子様連れで公園に出かけるのにここへは車で来ることが必要と思われるのでやや不便に思うところではありますが、使い勝手と安全上の問題との兼ね合いで難しいところなのでしょう。

場所は近くに道の駅潮彩市場があり、開けた場所です。令和3年1月時点ではグーグルやヤフーの航空写真では写っていませんが、天気が良く風があまりない日に小さなお子様をお連れになられてはいかがでしょうか。

次回のリレーコラムは福田犬猫病院の福田泰史先生にお願いします。



人と動物、生態系の健康はひとつ〜ワンヘルス共同宣言の発表

山口県獣師会事務局

公益社団法人 日本獣医師会から標記の共同宣言の発表がありましたので、お知らせします。なお、本宣言については、県獣医師会ホームページ「お知らせ」欄にも掲載しております。

共同宣言内容は、次のとおりです。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行(パンデミック)により、人類は歴史的な危機に陥っています。近年、COVID-19を含む新興感染症の発生が増加する傾向にあり、これらの約7割が野生動物に由来する人獣共通感染症(人と動物の共通感染症)であると考えられています。このような感染症発生の背景には、人類が自然環境におよぼしてきた負の影響、すなわち地球規模の異常気象、大規模な森林の破壊、土地利用の転換や農業・家畜産業の拡大、さらに野生動物の商取引・消費といった問題があると指摘されています。人に感染しうるウイルスは最大で82万7000種類あると推測されるなか、予防的対策にかかるコストはパンデミックによって被る被害額の100分の1と推計されており、今こそ予防的アプローチによる、人と自然が共に生きられる社会の実現が急務となっています。

私たち、人と動物の医療や公衆衛生の専門家、環境保全に携わる機関・団体は、日本、そして世界での新興・再興感染症の発生予防、パンデミック防止に向け、「人」「動物」「生態系」の健康をひとつと考えるワンヘルス(One Health)の理念のもと、それぞれの力を集結、連携し、さらに政府との対話を通じて、下記に取り組んでいくことを誓います。

記

生態系の健康を守ります

- 地球規模での人間活動の拡大が、森林伐採などの自然破壊を引き起こし、新興感染症の発生要因となっている現状を認識し、環境問題の危機を訴えていきます。
- 新興感染症の発生や新たなパンデミックを防ぐために、生態系を構成する健全な生きものつなかりに

配慮し、これまでの過度の自然環境への立ち入りや過剰な利用を含む野生動物との関わり方を見直していきます。

●地球上の生態系が、人と動物の生命を支えていることを忘れず、その保全と回復に取り組み、そのための行動を社会に呼びかけます。

動物の健康を守ります

●私たちが接触する動物には、ペット（コンパニオンアニマル）や家畜だけでなく、暮らしの中で意識することは少ない多くの種類の野生動物も含まれていることを強く認識します。

●人と動物の間で感染症が伝播することを認識し、動物たちとの距離感を見つめ直し、適切な関わり方を考えていきます。また、感染症リスクの高い野生動物の利用や取引を削減していきます。

●そのために私たちは、病原体の保有リスクを含めた野生動物の生態への理解向上や、家畜や野生動物の健全性のモニタリング、ペットや家畜の感染症対策、飼育動物の福祉向上を進めます。

人の健康を守ります

●健全な生態系の確保は、人の身体的・精神的な健康と豊かさにつながることを強く認識し、より多くの人に訴えていきます。公衆衛生に深刻な脅威をもたらす気候変動、森林破壊、水質汚染といった環境問題を、国際、地域、様々なレベルでの協力・連携のもと解決し、心身両面の健康に貢献することを目指します。

●生態系の保全、生物多様性の確保、飼育動物との適切な関係の構築を通じて、人獣共通感染症（人と動物の共通感染症）、薬剤耐性菌の蔓延、食品汚染などによる健康被害を防止し、公衆衛生の向上に貢献します。

●ワンヘルスの考え方や諸活動について、幅広い世代の市民に啓発し、ポストコロナのライフスタイルを創生し、人と自然が共に生きる社会の実現を目指します。

生態系の健康、そして動物の健康を守ることが、人の健康を守ることでもある、という事実を認識し、これら3つの健康をひとつの健康と捉え、守っていきます。

2021年1月15日

呼びかけ団体名（五十音順）；

国際自然保護連合日本委員会、（公財）世界自然保護基金ジャパン、（公社）東京都医師会、（公社）東京都獣医師会、（公財）日本野鳥の会、（公財）日本自然保護協会、（公社）日本医師会、（公社）日本獣医師会、日本ワンヘルスサイエンス学会、人と動物の共通感染症研究会、NPO法人野生生物保全論研究会、（一社）リアル・コンサベーション

訃報

奥野 勝先生のご逝去を悼む

山口支部長 藤原 宣義



元山口支部副支部長の奥野勝先生が12月31日に肺癌のためご逝去されました。享年81。先生は昭和38年に山口大学農学部獣医学科を卒業され、一時全薬工業に勤務された後、昭和44年7月に山口県職員となられ、柳井保健所を振り出し

に山口県生活衛生課や山口保健所に勤務され、平成12年4月に健康福祉部保健技監を最後に県庁を退職されました。その後も、平成16年12月まで(財)山口県生活衛生営業指導センターに勤務され、永く山口県の保健衛生に尽力されました。また平成13年から17年まで2期県獣医師会監事を、平成19年から24年

までの3期山口支部副支部長を務められ、山口県獣医師会の活動・発展に貢献され、平成11年に県獣協会会長表彰を、平成21年に中国地区獣医師会連合会長表彰を、平成25年に日本獣医師会長表彰を受けられ、これまで各方面でご活躍されておられました。令和元年6月に肺癌が発見され、その後加療しながら入退院をされておりましたが、12月に前からの腎臓病と相まって急速に病状が悪化し、31日にご逝去されました。正月であったことから1月3日に親族でしめやかに葬儀を執り行われた旨1月15日に獣医師会に報告があり、18日に田中会長と自宅に訪問し弔意を捧げました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

合掌

事務局だより

1月18日 ・第4回山口大学共同獣医学部獣医学教育改革推進連携協議会 山口市（山口大学）
1月22日 ・会報編集委員会 山口市（県獣会館）

1月23日 ・令和2年度山口県行政書士会研修会 山口市（カリエンテ山口）
1月7日、21日 ・事業推進会議

次回編集委員会 2月24日(水) 13:30~

山口県獣医師会会報 第717号 令和3年2月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田 晋平

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷